第４章　都市づくりの目標

第２章　境港市の現況

1. 概況
2. 自然
3. 歴史
4. 都市基盤
5. 産業
6. 生活基盤

第３章　境港市の都市計画の課題

1. 地域資源の保全と利用
2. 危機管理と災害対応
3. 社会的弱者に対応した都市施設の整備
4. 土地利用規制
5. 新たな産業用地の確保
6. 身の丈に合った社会基盤
7. 豊かさの追求（量より質へ）

第４章　都市づくりの目標

1. 都市づくりの基本方針

まちづくり総合プラン

【まちづくりの基本理念】

魅力と活気に満ちたまち

心豊かに、共に生き、支え合うまち

【将来都市像】

「環日本海オアシス都市」
～笑顔あふれる 日本一住みたいまち 境港～

【将来都市像実現のための基本目標】

誰もが安心して元気に暮らす支え愛のまちづくり
「さかな」「鬼太郎」「港」を生かしたまちづくり
地域を担う人を育むまちづくり
自然と共に安全で住みよいまちづくり
未来につけを回さないまちづくり

2. 都市づくりの基本的な方向

- **住み続けられるまちづくり**
- **自然と共生したまちづくり**
- **すべての人にやさしいまちづくり**
- **個性と活気に溢れるまちづくり**
- **スマートシティ型のまちづくり**

第４章　　都市づくりの目標

１．都市づくりの基本方針

上位計画である『境港市まちづくり総合プラン（第 10 次境港市総合計画）（以下「総合プラン」とします）』において定められた「まちづくりの基本理念」と「将来都市像」、「将来都市像実現のための基本目標」を、本マスタープランの「都市づくりの基本方針」とします。「総合プラン」では、次のように定めています。

【まちづくりの基本理念】

（１）　魅力と活気に満ちたまち

重要港湾「境港」、特定第三種漁港「境漁港」、国際空港「米子鬼太郎空港」という重要な社会基盤である３つの「港」、日本有数の水揚量を誇る水産資源、水木しげるロードや海などの観光資源を生かし、産業振興や観光振興を図ることで、市民や本市を訪れる人の笑顔があふれ、賑わいのある活気に満ちたまちづくりを目指します。

（２）　心豊かに、共に生き、支え合うまち

福祉、教育環境の向上に努め、子どもから高齢者まであらゆる世代、障がい者や外国人などすべての人々が、互いを尊重し合い、支え合う共生社会の実現とともに、他の地域との連携による共生や自然との共生を図り、笑顔があふれ、安心・安全な共生のまちづくりを目指します。

【将来都市像】

「環日本海オアシス都市」　～笑顔あふれる　日本一住みたいまち　境港～

本市はこれまで、重要港湾「境港」、特定第三種漁港「境漁港」、国際空港「米子鬼太郎空港」という重要な社会基盤である３つの「港」と日本有数の水揚量を誇る水産資源、水木しげるロードや海などの観光資源を生かしたまちづくりに加え、魅力と活気にあふれ、心豊かに、安心して暮らせるまちづくりを進めることで、「環日本海オアシス都市」の実現に向け、着実に歩みを進めてきました。

しかしながら、世界規模のコロナ禍に見舞われ、国内外との活発な人の行き交いがなくなるなど、本市にとっても大きな影響がありましたが、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、今後も、本市の特性を生かし、砂漠の中の「オアシス」のように国内外から人やものが寄り集り、笑顔があふれるまちになることを目指し、「環日本海オアシス都市 ～笑顔あふれる　日本一住みたいまち　境港～」を将来都市像とします。

【将来都市像実現のための基本目標】

（1）誰もが安心して元気に暮らす支え愛のまちづくり 【分野：子育て・健康・福祉】

子どもは地域の宝であり、大切な宝をより増やしていくことが必要です。これまでも「子育てするなら境港」を掲げ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない総合的な支援に取り組んできましたが、一層きめ細やかに、家庭に寄り添った支援や保育の質やサービスの向上に取り組むことにより、安心して産み、育てられる環境づくりに努めます。

また、高齢者や障がいのある方々が住み慣れた地域で生きがいを持ち、元気で安心して暮らし続けることができ、災害時だけでなく、平時の見守りや買い物支援など、自分のできることで助け合う地域の支え愛活動を推進します。

さらに、日頃からの定期的な健診の受診を推進するとともに、フレイル予防を一層推進し、健康寿命の延伸を図ります。

（2）「さかな」「鬼太郎」「港」を生かしたまちづくり 【分野：観光・産業・広域連携】

累計入込客が 4,000 万人を突破した水木しげるロードは、さらなる魅力向上のため、水木しげる記念館の建て替えを行うとともに、境夢みなとターミナルや弓ヶ浜サイクリングコースなどの新たな観光資源や美保湾、弓ヶ浜を活用し、港や海辺を生かした賑わいづくりを図るなど、観光振興に取り組みます。

産業面では、高度衛生管理型漁港・市場整備とともに、水産物のさらなる付加価値の向上を図り、境港ブランドを日本一のブランドに育て、農業においては、若者にとって魅力ある産業として育成します。

中海・宍道湖・大山圏域で連携し、広域観光や企業誘致を進め、雇用創出を図ります。この圏域が「あたかも一つのまち」として生活圏を形成するため、米子－境港間の高規格道路をはじめとする「８の字ルート」の早期実現に向け、圏域一丸となって取り組みます。

（3）地域を担う人を育むまちづくり 【分野：教育・文化】

「市民一人一人を大切にした教育の実現」に向け、コミュニティスクール（学校運営協議会制度）を学校・地域・家庭がパートナーとして、密接に連携・協働し、社会総がかりで取り組んでいくとともに、子どものうちから、地域の産業や文化、まちの未来について考える機会を設けることで、ふるさと境港に愛着を持つ子どもを育んでいきます。

教育現場においては、「GIGA スクール構想の実現」に向けて、整備された ICT 環境を活用し、児童生徒の資質・能力の向上に取り組みます。

文化・芸術の拠点となる「境港市民交流センター（愛称　みなとテラス）」は「みんなが集まる広場のような複合施設」という基本理念のもと、子どもから高齢者まで多くの人々が気軽に集い、賑わいあふれる施設を目指します。施設の中核を担う「図書館」は、図書の充実に加え、子育て支援・障がい者支援・ビジネス支援にも取り組みます。

（4）自然と共に安全で住みよいまちづくり　【分野：環境・都市基盤・防災】

2050 年（R32 年）を目標に、二酸化炭素の排出を実質ゼロとするゼロカーボンシティを目指し、持続可能な脱炭素社会の実現に向けた取り組みを行うとともに、海洋プラスチックごみ問題をはじめとする海や海辺を守る取り組みやゴミの減量化を図ることで、他に誇れる美しい自然環境を守り、後世に引き継いでいきます。

あらゆる年代・境遇の人々が互いを尊重し合って支え合い、心豊かに暮らしていける共生社会の実現を目指すとともに、市民生活に密着したインフラの整備を行うほか、市内で増加している空家を、地域の特性を踏まえた利活用や解体支援などを通じ移住定住につなげ、地域に賑わいと活力を生み出すまちづくりに取り組みます。

また、全国各地で地震や豪雨などによる大規模災害が起きており、2022 年（R4 年）7 月に開館予定の「境港市民交流センター（愛称　みなとテラス）」に市の防災機能を移転させ、防災体制の充実を図り、日頃からの備えとともに、自助・共助による地域防災力の底上げに取り組みます。

（5）未来につけを回さないまちづくり【分野：協働・デジタル化・行財政】

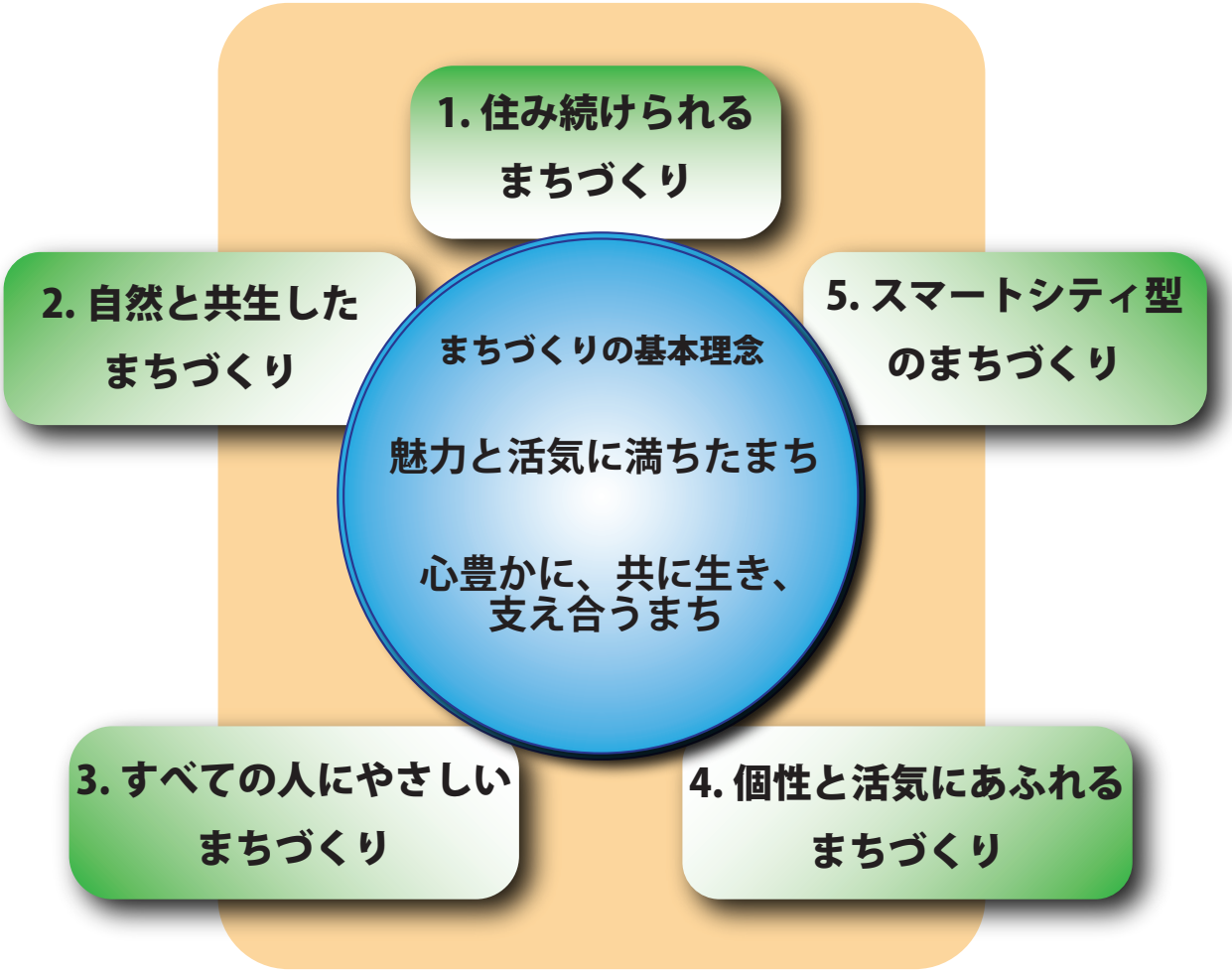
行政運営においては、行政、自治会、市民団体、民間企業などがそれぞれの特徴を生かしながら、地域の課題を解決していくための対等なパートナーとして、様々な形で連携し、協力し合いよりよいまちを創り上げていく「協働のまちづくり」を引き続き推進していきます。

デジタル化の推進については、AI 等の ICT 技術を活用し、デジタル化に取り組むことにより、業務の効率化を促進し、市民一人一人に向き合う時間や政策課題について検討する時間に振り分け、市民サービスの向上を図ります。

また、社会保障関係経費の増大に加え、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大規模な財政出動や税収の落ち込みが、国の財政状況を一層深刻なものとし、地方財政にも影を落としている中、ふるさと納税制度の活用や移住の促進等により自主財源の確保を図るなど、未来につけを回さない行財政運営に取り組みます。

2．都市づくりの基本的な方向

これらの「都市づくりの基本方針」および前項までの「境港市の現況」や「境港市の都市計画の課題」を踏まえ、将来都市像である「環日本海オアシス都市」～笑顔あふれる日本一住みたいまち　境港～の実現に向けて、都市計画における都市づくりの基本的な方向は、以下の１～５とします。



都市づくりの基本的な方向